

住人豊前々實俊并橘藤五實昌申存故
實由之問被召出令問子細給仍件兄弟
暗注進兩國繪圖辨定諸郡券契卿里田
畠山野河海悉見此中注漏餘目之所之
外更無犯失殊蒙御感之仰則可被召仕
之由云々之々所にも古ハ阿保家の所成
なり々々々や古人曰天正二年安保家滅
後ハ家臣桒本何素といふ人お續一居
り々に其後言上家（百々々）れ又其後上校
家（渡り）其末又言上（歸言上家改易の

後唐同光元年（下され）元和八年（下）入部
天和元年二月余月飲酒并牛之勅（下）
地付及貞享三年（寅）十一月廿九日死去其後
支別酒井傳志（下）及少子息勸十郎（下）
さ。付及元禄五年（申）六月十七日死去其後
酒井吉之元及少子息吉之郎（下）
及元禄九年（子）六月十一日江府にて死去其
代年教十五（年）正徳三年（己）六月余月飲百
上之れ所領所とあり。梅本氏証材の大店屋
とあり。其後横山（下）改易今梅本とあり。